

日本初のZEB認証庁舎

開成町

【住所】〒258-8502 神奈川県足柄上郡開成町延沢 773 【TEL】0465-84-0314
 【URL】<https://www.town.kaisei.kanagawa.jp/info/1160>

活動概要

緩和分野

取組の概要

パッシブ技術とアクティブ技術を組み合わせて用いることで、全国に先駆けて役場庁舎のZEB認証を取得した。CO₂吸収源が少ない地域であるが、水に恵まれた特徴を活かした空調システム、太陽光発電システム、構造を工夫した建設により、令和2年度の一次エネルギー消費は85.5%削減できた。CO₂みなし削減量は228.06トンにもものぼり、町の面積の約1/25相当のスギ人工林が吸収するCO₂量に匹敵する。特殊な技術を使わずに完成したZEB庁舎の開庁後、既存住宅のスマートハウス化が進み、住民の行動変容のきっかけの一つとなった。ZEB庁舎をきっかけに地域にゼロカーボンシティの浸透を推し進め、全国の同様な地域特性のある自治体に対する発信を行っていく。



庁舎屋上に太陽電池モジュールを499枚設置

気候変動対策としての貢献度

ゼロエネルギービルディングで整備（令和2年度開庁）し、基準一次消費エネルギーに対し設計段階で79.0%、施工完了時で81.6%の削減を実現し、「Nearly ZEB」認証を取得している。行政の庁舎でゼロエネルギービルディング認証を取得したのは国内初の事例である。当町では、ZEH（ZEH+、LCCM住宅を含む）や既存住宅のスマートハウス化（創エネ・蓄エネ・省エネ設備の設置）に対して補助事業を行っており、開庁前後で補助実績が4倍増となった。



日射遮蔽や輻射空調など既存技術を組合わせた

期待される波及効果

従来からある技術を組み合わせてZEBを実現したことで、ZEBやZEHの導入が何ら特別なものではなく、これからの時代に必要不可欠なものであると広く発信できた。庁舎整備を受けて脱炭素化の機運を更に高め住宅だけでなく再生エネルギー100%導入、電気自動車普及など住民の行動変容に波及効果が期待できる。

刷新的要素

町のシンボルであると同時に低炭素社会における建物のあり方を示すものとして容易に仕組みを理解することができる技術の結晶で整備する必要があり、革新的技術と従来からある技術を組み合わせることに注力した。シビックプライドの醸成につながり、地球環境のケアにいざなう端緒となるものと考えている。

今後の計画、持続的な展開の展望

先に整備した小水力発電設備とZEB庁舎を併せて、再生可能エネルギー普及の取組として発信しつつ、住民向けのZEHやEVなどへの補助の更なる充実化や環境学習の実施により、前述のとおり環境意識が極めて高い町民気質にゼロカーボンシティの浸透を推し進めていく。

また、地域脱炭素化促進事業の活用についても検討を進めつつ、県内外の自治体との協力関係を構築し施策の共同策定や環境姉妹都市の連携、WEB連携によるイベント実施など検討を行う。